

しが国際協力親善大使レポート

なつはら ひろみち
夏原 宏充さん

隊次：2018年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ボリビア

自己紹介

ボリビアのスクレ市で小学校教育に関わって活動している夏原です。滋賀で約10年教員をしていました。派遣前は、秦荘西小学校に勤務していました。現職教員として派遣されていますので、2020年4月からは再び滋賀の教員としてバリバリ働く予定です。

以前から海外での生活や仕事に憧れていたということは全くなく、「広い視野で、様々な角度からものごとを見られる、考えられる子どもを育てられる教員になりたい!」という思いから、参加を決めました。

ボリビアってどんな国？

私が活動しているスクレ、日本で有名なウユニやラパスなどは高地にあります。スクレは1年間の気温が安定していて過ごしやすいです。同じボリビア国内でも、東部は低地で熱帯地域になり、年間を通じて気温が高いです。私も訪れたことがあります。スクレでは味わったことがない暑さと蚊の多さでした。熱帯特有の動物が見られたり、マンゴーなどのおいしい果物を食べられたりします。同じ国でありながら、様々な顔をもっている所がボリビアという国の最大の魅力です。

ボリビアでの生活と活動

【ボリビアの人達】

常に心を開き、すぐに仲良くなれる親しみやすさを持っているのがボリビアの人達の特徴です。

電気屋でドライヤーを買っただけなのに、その家族と一緒にバーベキューに行ったり、娘さんの誕生日会に呼んでもらったりしました。タクシーに乗ったら、聞いてもいないのに奥さんと知り合ったきっかけやお子さんの話をドライバーさんが話してくれます。「俺も結婚したのは35歳だったから、大丈夫だ!」と謎の励ましも受けました。

他にも、書き始めたらきりが無いほど、ボリビアの人達の親切エピソードはたくさんあります。人の優しさを十分すぎるほど感じられる素敵な国です。

【踊り】

ボリビアの人達を語る上で外せないのが踊りです。パレードのように楽器を演奏したり、踊ったりしながら街中を歩くイベントを何度も見ました。最初は「派手なことが好きだなあ。」くらいにしか思っていなかったのですが、「グアダルーベ」というスクレの聖母の誕生日を祝うお祭りを見て、少し考えが変わりました。

「カテドラル」と呼ばれる大きな教会の前に設置された祭壇の前でみんな祈りを捧げていました。中には、膝を地面につけて10分以上祈り続ける人や目に涙を浮かべながら祈る人の姿がありました。亡くなった友人や家族のことを想ったの涙でしょうか。健康に生きられていることへの感謝の涙でしょうか。こればかりは本人にしか分からないことですが、祈りを捧げた後は仲間と抱き合い互いを称え合う姿がありました。その姿を見



祈りを捧げる人達

て、何とも言えない感情になりました。日本にいと、「宗教」について考える機会が少ないですが、この日、多くのことを考えさせられました。

派手な衣装やメイク、音楽などに気を取られて大事な部分が見られていませんでしたが、スクレの人達にとってこのお祭りはただ騒いでいけばいいというものではないようです。改めて、様々な角度から物事を見る大切さを学びました。

【学校】

私は現在、スクレ市の小学校2つ（午前・午後1校ずつ）に関わって活動しています。

ボリビアの小学校の多くは午前・午後のどちらかしかありません。右の表は私が活動する午前の小学校の日課表です。半日し

8:00~	8:40	1時間目
8:40~	9:20	2時間目
9:20~	9:30	休み時間
9:30~	10:10	3時間目
10:10~	10:50	4時間目
10:50~	11:00	休み時間
11:00~	11:40	5時間目
11:40~	12:20	6時間目



担任の先生不在で、急遽、分数×分数の授業をすることになりました。拙いスペイン語、準備不足の授業内容にも関わらず、子ども達は160分間集中して学習に取り組みました。すごいです！！

かなくても、ちゃんと6時間授業があります。1年生から6年生まで同じです。また、1時間は日本より5分短いですが、1時間目と2時間目の間に休み時間はありません。80分間続けて授業があります。休み時間はたったの2回、合わせても20分間しかありません。教室に自分の持ち物を置いておくことはできません。なぜなら午前と午後で同じ教室をちがう学校として使っているからです。朝の会や帰りの会、給食の時間ありません。

日本と比べると少し大変かもしれませんが、こちら子ども達にとっては、それが「当たり前のこと」なので、毎日楽しそうに学校に通っています。そして、勉強にもがんばって取り組んでいます。とにかく

字をていねいに書きますし、ノートが見やすいです。教科書がないのでノートがとても大切です。黒板を写すのではなく、先生が話したことを正確に書くことができている、感心します。

少しせまい校庭、少し短い休み時間ですが、子ども達にとって学校で友達と遊ぶ時間がかけがえのないものであることは日本と同じです。ボール、遊具、プール、体育館などが揃っている日本の小学校がいかに恵まれているかということがよく分かります。日本に帰ってから、子ども達に伝えたいことの1つです。

【活動】

私に求められているのは算数科の授業改善です。先生達に研修会を開き、どのように指導していくと良いかを伝えていきます。ただ口で言うだけなら同僚の先生達からの信頼は得られないので、率先して授業もしています。授業時間や指導内容が日本とは異なるため、うまくいかないことの連続です。また、言葉の壁は非常に高いです。ですが、私の拙いスペイン語でも、子ども達は必死に理解しようとしています。「学ぼうとする意欲があれば環境なんて関係ない」ということを彼ら・彼女らの真剣な眼差しから教わりました。



タラブコという街のお祭りに同僚の先生達と参加しました。トロトロと呼ばれる牛の衣装で踊るワカワカという踊りです。同僚の先生達は常に「ちゃんと前見えてる？」と心配してくれました。優しいです。



褒めることの大切さを伝えた研修会。実際に先生達にも実演してもらいました。1番褒め上手のこの先生は、午前・夜には別の学校で校長として、午後には私の活動場所で教諭として、1日3校で働いています。パワフルです！



先生達も子ども達もまじめに取り組んでいますが、計算の基礎が弱く、学習が積みあがっていきません。反復することの大切さを伝えたら、あるクラスでは計算カードが作られていました。保護者の方々の手作りだそうです。少しずつですが、先生も子どもも変わりつつあります。

ボリビアではたくさんの人の優しさに支えられながら、毎日の生活・活動を送っています。また、言葉がうまく通じずに、もどかしい気持ちになることも毎日のようにあります。今経験している全てのことを、日本に帰ってから学校現場に活かしていきたいと考えています。そして、ボリビアに残るあと1年の間に、今受けている恩を少しでも返していけるように、活動先の学校発展のために全力を尽くしていきます。

しが国際協力親善大使レポート

なつはら ひろみち
夏原 宏充さん

隊次：2018年度1次隊

職種：小学校教育

派遣国：ボリビア

自己紹介

ボリビアのスクレ市で小学校教育に関わって活動している夏原です。滋賀で約10年教員をしていました。派遣前は、秦荘西小学校に勤務していました。現職教員として派遣されていますので、2020年4月からは再び滋賀の教員としてバリバリ働く予定です。

ボリビアってどんな国？

私が活動しているスクレ、日本で有名なウユニやラパスなどは高地にあります。スクレは1年間の気温が安定していて過ごしやすいです。同じボリビア国内でも、東部は低地で熱帯地帯になり、年間を通じて気温が高いです。同じ国でありながら、様々な顔をもっている所がボリビアという国の最大の魅力です。



乾季の塩の大地も雨季の鏡張りも
日の出も日の入りも
どの景色も最高に美しいウユニ



カピバラ・ワニ・ピラニアなどの
野生動物に出会えるアマゾンの
地

3. ボリビアでの生活と活動

【活動】

私にはスクレ市の学校で算数の授業を改善することが求められています。

しかし、授業の改善以前に、基礎的な四則計算が子ども達に定着していないという課題を改善していく必要がありました。

また、日本にはカリキュラムというものが存在し、その内容に基づいた教科書もあり、無償で配布されますが、ボリビアには系統的なカリキュラムが存在しません。教科書がありません。お金を払えばテキストのような物を買うことができますが、学習者が理解しやすいような配慮はありません。先生達が教えやすい、子ども達が学びやすい環境が整っているとは、とても言えません。

こうした背景から、四則計算が定着しやすい手立てを先生達に提案し、子ども達の計算力を向上させることが現在の私の活動になっています。

(計算カードを使って)

日本では主に低学年で使用されている計算カードを使って、たし算・ひき算・九九の定着を試みました。計算カードは全て保護者の方の手作りです。学校では毎日、たとえ算数の授業がない日でもくり返し練習を行っています。

多くのクラスで子ども達の計算力を向上させることができ、特に変化の大きかった3年生のあるクラスでは、かけ算テストのクラスの平均点が28点から78点に向上しました。

「力をつけるにはくり返し、継続して取り組むことが大切である」ということや「やればできる!」ということなどを、子どもも保護者も先生も感じることができています。

(日本の子ども達との「算数オリンピック」を通して)

日本とボリビアの6年生で同じテストを同じ時間で取り組むという「算数オリンピック」を行いました。日本の6年生の平均点はボリビアの6年生の平均点の3倍以上でした。

テストの結果があまり良くなかった1番の原因は無解答率の高さでした。1つの問題を解くのにとても時間がかかることや集中力の無さが原因だと考えました。日本から送ってもらった動画を使って日本の6年生の計算の様子を先生達や子ども達に見せました。先生からは「倍速じゃなくて普通のスピードで再生してよ。」と言われました。言った先生は冗談で言っていますが、それくらい、日本の6年生の解くスピードが速く感じられたのだと思います。他の原因としては、小数・分数の計算の方法を理解していないということがあります。ボリビアではなぜか、公倍数・公約数を学習する前に通分・約分を学習します。どう考えても学習の順序が逆ですが、このような課題が浮き彫りになりました。

小テスト→解説→小テスト(同じ問題)という1時間の流れで正答率の低かった単元の復習をくり返しました。ちゃんと納得して理解すれば、1時間の中でもたくさんの子ども達の成長が見られます。1カ月間の復習の後に取り組んだテストの平均点は、前回より約40点も上がりました。ちゃんとした環境が整い、ちゃんとした授業を受ければボリビアの子ども達も日本の子ども達と同じように理解できます。

(先生達と力を合わせて)

私がいくら頑張っても活動に取り組んだとしても、全部を1人でやってしまっているのは、私の帰国後、何も継続していきません。子ども達の力を伸ばすのと同じくらい、同僚の先生達と力を合わせて取り組むことが大切だと考えています。

ボリビアの先生は、本当にまじめで誠実な人達ばかりです。不得意なスペイン語をつかいないがらの話し合いを終え、お互いの考えを分かり合えた時には、子ども達に授業を行う時とはまた違う喜びや楽しさを味わうことができます。



授業の進め方について先生達と話し合います
考えが通じ合った時には心の底

【生活】

ボリビアに来るまではフォルクローレという音楽の存在を知りませんでした。こちらで生活するようになり、フォルクローレのリズムや楽器の音色が大好きになりました。

た。週に2、3回夜間の音楽の学校に通い、サンポーニャを習っています。

また、ボリビアの人達を語る上で外せないのが踊りです。こちらに来てからたくさん踊る機会がありました。

右の写真は、9月にあったボリビアの「学生の日」に先生達と一緒にタラブコという街の伝統的な踊りを踊った時のものです。この踊りの前には、ソーラン節も先生達と一緒に踊りました。「日本の踊りを一緒に踊りたい！」と先生達に言われたので、一緒に練習して踊りました。練習時間があまりなかったのでかけ声は教えずに練習していたら、「イヤァー！」「テヤァァー！」などのかけ声を独自に開発していました。少しでも場を盛り上げようとするその姿勢には、「さすが！」と感心してしまいました。



左の写真は、オルコのカーニバルに参加した時のものです。現地の人と共に踊りました。とても楽しかったです。約3kmの道のりを3時間くらいかけて進みました。沿道の観客の人数と熱気に圧倒されました。耳にする楽器の音色・歌・歓声、目にする民族衣装、演奏や踊りを支えているフォルクローレのリズム、全てが合わさると最高の空間ができあがります。

ボリビアでの生活・活動は2年目に入りました。1年目はボリビアの人達の優しさに支えられてばかりで、何1つとして任地のために貢献することができませんでした。最近になって、ようやく、少しずつ、1年目に受けた恩を返すことができていると感じています。

相変わらずスペイン語は不得意なままですが、語学が達者になることと相手とのコミュニケーションを成立させることは必ずしもイコールではないと感じています。間違った文法であっても、不明瞭な発音でも、同僚の先生や子ども達は私が伝えたいことを理解してくれます。

大切なことは、信頼関係をしっかりと築くことだと思っています。信頼関係を築くために大切なことは、ただ1つ、「相手を信じること」だと思います。予定や言っていたことが変わることは頻繁にあります。その度に感情があっちに行ったりこっちに行ったりします。それでも、まじめで誠実なボリビアの先生達と子ども達のことを私は信じ続けます。たった1回でも「信じて良かった！」という思いを経験すれば、相手のことを信じ続けることはそんなに難しいことではありません。

共に生活し、共に活動するボリビアの人達のことをもっともっと好きになれるような残りの任期にしていきたいと思います。